

様式第11号（第9条関係）

実 績 報 告 書

平成17年11月22日

市川市長 千葉 光行 様

団 体 名 特定非営利活動法人 市川おやこ劇場
代表者名 理事長 渡慶次 康子
所 在 地 市川市福栄2丁目9番22号第1徳住ハイツ101
電 話 047（395）7670

平成17年6月21日付け 市川第20050616-0041号をもって交付決定のあった市川市市民活動団体支援金に係る実績報告について、市川市納税者が選択する市民活動団体への支援に関する条例第15条第1項の規定により、提出します。

記

1. 事業費総額 1,679,617 円
2. 交付決定額 334,389 円
3. 添付書類
 - (1) 支援決定事業収支決算書（様式第12号）
 - (2) その他市長が必要と認める書類



支援決定事業収支決算書

事業の名称：子どもがつくるまちミニいちかわ2005

1.【収入】

(単位:円)

項目	金額	説明(積算等)
参加費収入	373,800	200円×(1137人+732人)=373,800円
団体負担金	52,428	
助成金	670,000	国立オリンピック青少年総合センター助成金「子どもゆめ基金」
補助金収入	334,389	市川市市民活動団体支援金
寄付金収入	249,000	商店等からの協賛金
合計	1,679,617	

2.【支出】

(単位:円)

項目	金額	説明(積算等)
謝金	40,000	外部講師謝金 20,000円×2人=40,000円
旅費	41,180	補助者旅費 620円×4回×6人=14,880円 補助者旅費 620円×1回×1人=620円 補助者旅費 620円×3回×4人=7,440円 補助者旅費 940円×4回×1人=3,760円 10代スタッフ旅費 570円×6回×1人=3420円 10代スタッフ旅費 1000円×3回×1人=3000円 10代スタッフ旅費 620円×6回×1人=3,720円 10代スタッフ旅費 620円×3回×1人=1860円 10代スタッフ旅費 620円×2回×2人=2480円
印刷製本費	48,510	ポスター作成費 80円×600枚=48,000円 ポスター作成用コピー代 510円
通信費	4,710	募集案内 390円+140円+2560円+800円=3890円 資料郵送 120円×2回+280円=520円 振込手数料300円
事業消耗費	506,739	ブース材料費 439,068円(38ブース) 市民カード16,800円 チラシ用紙代32,532円 プログラム用紙代15,600円 石灰代1,200円 消毒液代1,539円
借料損料	998,285	テント26張り×2回 624,000円 イス239脚71,700円 発電機9台45,000円 机190脚190,000円 ドラム 9台 4500円 (値引き146,928円) 運搬費70,000×2回=140,000円 (1,075,200-146,928)×1.05=974,685円 運搬費20,000円 プロパンガス2,100円+1500円=3600円
会議費	22,310	スタッフ会議お茶代 24回 会議会場費2,550円
雑費	17,883	保険料100円×20人×2回=4,000円 文具費12,379円(マジック、ガムテープ、割り箸、輪ゴム、絵の具、封筒、養生テープ) 外部講師協力者昼食代 205円+798円+501円=1,504円
合計	1,679,617	

[事業報告書]

(2枚中1枚目)

事業の名称	子どもがつくるまち「ミニいちかわ2005」
実施時期 実施場所等	平成 17年 10月 15日(土)～10月 16日(日) 「行徳駅前公園」 平成 17年 10月 22日(土)～10月 23日(日) 「大洲防災公園」
事業内容 (目的・経過等)	子どもが「まち」をつくり、1人の市民として好きな職業につき生活することを遊びとして体験する。自分の意思で行動しそれに伴う全ての結果に責任を持つことで、自己肯定感を育てる。2日間実施することで子ども達に知恵が生まれ、また、いろいろな場で異年齢の子ども同士が交流することにより、思いやりと協調性が育まれる。スタッフとして関わる大人は子どもが遊びの中で育つことの大切さがあるがままを受け入れ見守る大人社会の必要性と大切さを学ぶ。
(活動実施プログラム)	
10月15日(土) 天気:晴れ	<p>6:00 ・行徳駅前公園に中高青スタッフ30人・大人スタッフ50人集合、業者トラック到着。荷降ろし、テント設営、器材準備。 ・事務所に中高青スタッフ5名・大人スタッフ3名集合。荷物を公園に軽トラで搬入。</p> <p>8:00 ・大人スタッフ100人集合。ブース準備。</p> <p>9:00 中高青スタッフの指示によりミーティング。スタッフバッジとブースの資本金(1000メテ)、マニュアルが配布される。</p> <p>9:00 受付開始(1～10番目に受付をした子にオープニングを手伝ってもらう説明をする。)</p> <p>10:00 オープニング(テープカット・クラッカー・風船)、ミニいちかわ開始</p> <p><参加者の動き>全員が主体で、あそびのまちの主人公になる。①受付で市民登録。②職安(まちの真ん中に設置)に行き仕事を選ぶ。 ③仕事場へ行き(1つのブースに付、2時間まで働ける)働く。 ④仕事に飽きたらスタッフにサインをもらって銀行へ行きミニいちかわの通貨をもらう(10分で100メテもらえる)⑤②に戻るor自由にお金を使う。</p> <p><中高生スタッフの動き>会議を重ね共通認識をもったスタッフの目印として白ネグタイをつけた。全体の流れに責任を持ち、忙しいブースにスタッフを配置する。 大人が子どもたちに口出ししていないか、にも目を配る。</p> <p><大人スタッフ>「ブース責任者・ブーススタッフ」のバッジは構成員の大人、当日、小学生の子に付いてきた大人には主旨を説明し、スタッフになるように働きかける。(大人の受付にて「当日スタッフバッジ」を渡す。スタッフをやめるときにアンケートをかいってもらう) 幼児に付いてきた大人には「幼児付き添いスタッフ」として札を渡し、幼児が働くブースのスタッフとして関わってもらう(説明書を渡す) スタッフバッジをつけていない大人は、まちの中に入ることはできない。</p> <p>11:00 職安に仕事が少ないってきたので、ブース責任者に、雇える人数を増やすように中高青スタッフが依頼する。</p> <p>12:00 まちの流れができ、子どもたちの活気が伝わる。ステージでは宝くじの販売の宣伝。それとは別にミニプロシックスも コマーシャルされる。青年スタッフが音響を使い子どもたちとステージを盛り上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間ごとに「銀行の職員」がブースの売上を集金(預金)に行く。ブース売上ランキングを行う。 ・今年は職安を中央に配置し、窓口を4箇所にしたことで昨年までの混雑が解消されていた。 <p>15:00 エンディング 市役所前で最後の売上ランキングの発表。BGMを流し、1日目の終了を伝える。</p> <p>15:30 職安の前に集合し中高生スタッフ・大人ブース責任者で反省会。改善点、気付いたことを報告しあう。 スタッフ全員で片付け・研修室にテント、イス、机以外の荷物を運び入れる。ゴミを集積場所に運ぶ。</p> <p>18:00 中高青スタッフ、大人担当者のミーティング。各ブースの反省。市民カード等の在庫確認。</p> <p>21:00 終了・解散</p> <p>10月16日(日) 天気:雨のち曇</p> <p>8:00 スタッフ集合。研修室から荷物を運ぶ。前夜の雨による、水はけ作業。ブース準備。</p> <p>9:00 職安前で中高青スタッフの指示でミーティング。改善点等の連絡。大人ブース責任者からの意見交流。</p> <p>9:00 受付開始(雨天にも関わらず、長い行列ができる)</p> <p>10:00 オープニング(テープカット・クラッカー・風船)、ミニいちかわ開始。 動き、流れは1日目と同様。雨の中でも子どもたちはレインコート、傘をさしまちの中を遊んでいた。 止みそうでは止まない雨に、中高青スタッフは協力して対策を考え行動していた。 市役所では市長が決まり、まちの視察が行われ、ハロウィン仮装工房では雨の止んだ合間を縫って行進を楽しんでいた。</p> <p>14:00頃 雨が止む</p> <p>15:00 エンディング 中高生スタッフと参加者が集い、言葉を交わしあい、ミニいちかわの成功を確認しあった。 10年後もずっと続いてほしいという声もきこえてきた。</p> <p>15:30 全員で片付け。青年スタッフの指示により、撤収する。(当日返却、事務所に搬入、等)</p> <p>17:00 業者トラック到着。テント・イス・机・発電機を担ぎ入れる。</p> <p>19:00 中高青・担当者、研修室にて反省会。タイムスケジュールを追って確認。大洲会場に生かす反省会となる。</p> <p>21:00 終了・解散</p>
【活動の参加実績】	<p>外部指導者(講師) 2名、</p> <p>参加人数(子ども) 1,869名、 (4日間延べ人数 約3,200名)</p> <p>団体構成員 150名 (4日間延べ人数 約550名)</p>

(活動実施プログラム)

10月22日(土) 6:00 ・大洲防災公園に中高青スタッフ35人・大人スタッフ50人集合、業者トラック到着。荷降ろし、テント設営、器材準備。
 天気:曇りのち雨 ・軽トラで会員宅、協力者宅より器材を搬入。
 8:00 ・大人スタッフ100人集合。ブース準備。設営中より雨が降り出し、受付用紙記入場所にテントを設営する。
 9:00 中高青スタッフの指示によりミーティング。スタッフバッジとブースの資本金(1000メティ)、マニュアルが配布される。
 9:00 受付開始(1~10番目に受付をした子にオープニングを手伝ってもらう説明をする。)
 雨のため子どもたちがきてくれるかスタッフは不安気だったが、開始近くになると行列ができてきた。
 10:00 オープニング(テープカット・クラッカー・風船)、ミニいちかわ開始

<参加者の動き>は1活動目と同様。

- 全員が主体で、あそびのまちの主人公になる。①受付で市民登録。②職安(まちの真ん中に設置)に行き仕事を選ぶ。
- ③仕事場へ行き(1つのブースに付、2時間まで働ける)働く。
- ④仕事に飽きたらスタッフにサインをもらい銀行へ行きミニいちかわの通貨をもらう(10分で100メティ)⑤②に戻るor自由にお金を使う。
- ・初めて開催する会場だったが、子どもたちはすぐにまちに溶け込んでいた。幼児付き添いスタッフの大人に主旨がきちんと伝わって、いない様子がみられた。(イスに座ってくつろいでいたり、口出しが多かったりと・反省会で問題になった)
- 子どもたちは待つこともなく仕事を手にし、働き、通貨を得て楽しんでいた。

<中高生スタッフの動き>1活動目と同様。雨のため参加者も混雑する人数ではなく、ゆったりとしたまちになっていた。

<大人スタッフ>1活動目と同様。

- 「ブース責任者・ブーススタッフ」のバッジは構成員の大人、当日、小学生の子に付いてきた大人には主旨を説明し、スタッフになるように働きかける。(大人の受付にて「当日スタッフバッジ」を渡す。スタッフをやめるときにアンケートをかいってもらう)
- 幼児に付いてきた大人には「幼児付き添いスタッフ」として札を渡し、幼児が働くブースのスタッフとして関わってもらう(説明書を渡す)
- スタッフバッジをつけていない大人は、まちの中に入ることはできない。
- 大人にもゆっくりと説明ができたため、当日スタッフのなり手が多く、目的の一つである、子どもと地域の大人との関わりが深められた。
- 11:00 なかなか売れないと・食べ物屋さんの値下げが始まった。皆、働いてこれから通貨を得るので、売れるのはこれからなのだが、子どもが焦り、大人もそれに気付かず次々に下げられていった。
- 15:00 エンディング 市役所前で最後の売上ランキングの発表。BGMを流し、1日目の終了を伝える。
- 15:30 職安の前に集合し中高生スタッフ・大人ブース責任者で反省会。改善点、気付いたことを報告しあう。
 値下げのことが問題になり、ミーティングで話し合い、明日決定事項を伝えるということになった。
 スタッフ全員で片付け・集会室にテント、イス、机以外の荷物を運び入れる。ゴミを集積場所に運ぶ。
- 18:00 中高青スタッフ、大人担当者のミーティング。各ブースの反省。市民カード等の在庫確認。
- 20:00 終了・解散

10月23日(日) 8:00 スタッフ集合。集会室から荷物を運ぶ。ブース準備。
 天気:晴れ 9:00 職安前で中高青スタッフの指示でミーティング。改善点・今日は値下げはしない方向でいくことが中高生スタッフから伝えられた。また、工房系のブースでは作ることが仕事であり、作ったものは売り物である確認がされた。
 9:00 受付開始(長い行列ができていた)
 10:00 オープニング(テープカット・クラッカー・風船)、ミニいちかわ開始。
 動き、流れは1日目と同様。参加者が多く職安に列ができる。
 12:00 仕事が少なくなり、中高青スタッフが、ブース責任者に雇う人数を増やすよう依頼してまわる。
 ・この日も、当日スタッフのなり手が多く、十分なスタッフがブースに派遣されていた。
 ・幼児付き添いスタッフには、主旨を書いた用紙を渡してあったが、様子は1日目と同様だった。
 15:00 エンディング 高校生による楽器演奏、青年によるパフォーマンスがあり、ミニいちかわ最後の時間を飾った。中高生スタッフと参加者が集い、言葉を交わしあい、来年の開催を言葉にしていた。
 15:30 全員で片付け。青年スタッフの指示により、撤収。
 17:00 業者トラック到着。テント・イス・机・発電機を担ぎ入れる。
 19:00 中高青・担当者、研修室にて反省会。
 20:00 終了・解散

- * 大人スタッフは2会場に分散しブースを担当した。(担当者は2会場に携わった)
- * 中高青スタッフは、ほとんどの子どもたちが2会場に責任感をもって関わった。

11月4日 中高青スタッフまとめの会
 11月15日 大人担当者まとめの会

事業結果
(成果・課題等)

・約30名の10代~20代スタッフが、大人担当者と共に企画・準備・撤収まで主体的に関った。
 まちの運営については、参加する子どもたちのことを考えた話し合いを重ねた。会議回数30回
 ・4日間で2日間が雨天だったにも関わらず、参加した子どもの数は延3,200名、大人スタッフ延550名。
 ・当日スタッフとして関わった大人の人数は昨年を上回り子どもの遊びのまちに対する理解が深まった。
 ・中学生・高校生・青年が責任者となって関わったブースも昨年の2倍の数となった。
 ・幼児と一緒に来た親は「幼児付き添いスタッフ」として「まち」に入ってもらったが、スタッフとしての自覚を伝えることが出来ず、まちにふさわしくない行動が多くみられたことが来年の重要課題である。
 ・小学4年生以上から「子ども店長」を募集し、企画、準備から大人と関わる作り方をしたところ、意識の違いがみられた。子ども店長の人数を増やしていくことも課題としたい。